



# まちの駅ニュース

人と人の出会いと交流をサポートする  
まちの情報発信基地

## 1. 第21回まちの駅全国大会 in 会津

第 21 回まちの駅全国大会 in 会津は、戊辰 150 周年&まちの駅 20 周年の記念大会として、平成 30 年 11 月 9 日～10 日の日程で開催しました。全国各地から 147 名のまちの駅仲間が集いました。

フォーラムはラジオ番組形式で行い、「戊辰 150 周年、まちの駅でもっと交流しよう」をテーマに、FM 会津（ラジオの駅）の永井智佳氏がパーソナリティ、ミスツーリズムクイーンインターナショナル日本代表 2018 の庄司圭織氏をゲストに、フロアでは野田智子氏が全国のまちの駅関係者にインタビュー。

分科会は、(1) インバウンド～YOU は何しにまちの駅へ？ (2) まちの駅の機能アップ～若者も立寄るまちの駅へ (3) まちの駅の魅力のを見つけ方、磨き方、売り出し方～マップづくりから考える、の 3 つのテーマに分かれて議論しました。インバウンドの分科会では、マレーシアで行われたまちの駅の実証実験報告もありました。

大交流会も大いに盛り上がり。東日本大震災で会津若松市に役場ごと避難していた大熊町の石田仁副町長も参加、現状報告をいただきました。仮設住宅にプレゼントを届けた「心のくつした便」のことが思い出されました。



## 2. まちの駅星乃井の大内宿ナイトツアーの紹介



会津まちの駅は、会津 17 市町村 5 つのエリアがネットワークを組んでいます。

福島県南会津郡下郷町にあるまちの駅星乃井は、良質な天然温泉「まごころの宿星乃井」で、名物の「ジャガイモの煮物」も大好評です。大内宿に一番近い会津湯野上温泉の温泉宿ですが、星明駅長による「大内宿ナイトツアー」が人気です。誰もいない静けさと星空の大内宿は江戸時代そのまま、いよいよタイムスリップ感が強烈です。また、朝食前の下郷村が一望できる小野観世音散策を楽しめます。

## 3. まちの駅中庄マスカットの紹介

岡山県倉敷市のまちの駅中庄マスカット。マスカットスタジアムの近くにある「曲江春」は、外観は洋風の中国料理店。シェフ兼駅長の久保隆さんのこだわりの料理は裏の菜園での野菜づくりからで、太陽をいっぱい浴びた、採れたての、土のついた旬の野菜のおいしさを味わえます。

平成 30 年 7 月の西日本豪雨では、お店が水に浸かってしまいました。厨房機器にも被害が出たほか、菜園で作った玉ねぎをつるして乾かしていたところ、溜まった水とその後の高温で蒸し風呂状態になり、1/3 くらい腐ってしまったとのこと。この玉ねぎは「ケル玉」という品種で、「ケルセチン」が通常の 1.5 倍も含有しています。「曲江春」ではケル玉で作った自家製のタマネギ・ドレッシングを販売しています。また、地域の方の裁縫技術を生かして、野菜染めの商品も製造販売しています。



## 4. 東京都江戸川区パルプラザ SC で恒例のまちの駅物産市を開催

平成 30 年 12 月 1 日、東京都江戸川区のパルプラザ SC で恒例の「まちの駅物産市」。今回は、「まちの駅ネットワークふくしま」からも出店いただき、芋煮と牛焼きの販売。その他、静岡から、由比まちの駅原藤商店の桜エビ、せんべい、いちろうこの蒲鉾、黒はんぺん、焼津市のまちの駅のカネオト石橋商店からカツオやマグロの佃煮、おでんカレー等々。また、イベントとして、猿回しと大道芸人によるパフォーマンスを行いました。好天に恵まれ、楽しい一日になりました。



## 追悼 田中栄治…「道の駅」を実現させ、「まちの駅」を作った男

平成 31 年 2 月 24 日、まちの駅の発案者である地域交流センターの前代表の田中栄治が亡くなりました。享年 75。2010 年 1 月に病で倒れ、9 年 2 か月にわたる闘病、療養生活の末でしたが、家族に看取られ、安らかな眠りについたそうです。紙面の都合上簡単にではありますが、故人の業績をお伝えし、追悼いたします。

### 「道の駅」の社会実験

まちの駅の発想の原点は「道の駅」です。国土交通省道路局が所管する「道の駅」は、現在 1154 駅あります。制度化されたのは平成 5 年ですが、平成 3 年～4 年に、地域交流センターが事務局となってコンセプトを整理し、全国 3 ヶ所（山口、岐阜、栃木）で社会実験を行ったことが、「道の駅」の始まりです。当時、「道の駅」のような発想はいろいろな人が持っていたようですが、アイデアをアイデアのままにできなかったところが田中栄治の実践力の真骨頂だと言えます。

「道の駅」の社会実験は山口県で最初に行いました。阿武町は当初から常設化を計画していましたので、仮設とはいえ全国初の「道の駅」を設置したことで「発祥の駅」を名乗っています。実は、阿武町は田中の生まれ故郷でもあります。ちなみに、仮設実験の検討段階では「国道の駅」と言ったり、他の名称の検討もされましたが、「みち」という発音が「未知」であり「美地」も当てられるという発想から、「道の駅」に決まりました。実験は、参加市町村、地元の農協、漁協、商工会議所、NTT などで協議会を組織して実施しました。建設省（当時）は主催団体ではなく協力団体という位置づけであり、実験調査費を出してはおりません。実験経費は空き缶のポイ捨てをなくす美化のための調査費を活用しました。そういう点からも「道の駅」は「美地の駅」なのでした。



### 地域連携軸構想と「まちの駅」



平成 7 年に「21 世紀の国土のグランドデザイン」が発表されました。第五次全国総合開発計画に当たる新しい国のビジョンです。その中で、「地域連携軸」というキーワードが提示されました。そこで田中は「道の駅」が地域間連携の拠点となる機能を果たすのではないかと考えました。

「道の駅」は道路空間の一部と位置付けられており、国道沿いに使える土地がない場合や、国道に面していない場所に作る場合は「道の駅」とは認められません。「道の駅」の設置が難しい市町村では、同じ機能を果たす「地域連携拠点」を作る必要があります。そこで、一市町村一箇所の設置

を想定して、平成 10 年に「連携センター」の仮設実験を行いました。新たに整備するための助成制度もなかったので、既存の公共施設を活用・開放して、その中に「地域連携機能」を置くという考え方でした。全国数ヶ所で「連携センター」の実験を試み、フォーラムを開いて情報を発信・共有し、地域連携軸の形成を検討しました。また、「連携センター」の正式名称を公募ガイドで募集したところ、2700 もの応募があった中から公開討論を開いて選定し、「まちの駅」の名称を使うことに決定しました。

### 交流連携拠点の原点となった都市小屋「サロン集」

まちの駅のような交流連携拠点の可能性を発想する原点は、田中が店主を務めた「サロン集」での経験です。昭和 49 年 7 月にオープンした集では仕事帰りに様々な分野のメンバーが自主的に集い、その中から様々な発想や活動が生まれました。「幻の日本酒を飲む会」は吟醸酒ブームの先駆けとなり、「日本トイレ協会」が誕生して公衆トイレの改善に貢献したり、「道の駅」の社会実験でも多大な協力を得ることができました。その他にも「トシコロジ」「日本昆虫倶楽部」「ゴミニティ」



「エコライフ&ビジネスネットワーク」「瀬戸内海クラブ」「都心の水辺探訪クラブ」など、数多くの会合が生まれ、活動しました。集での出会いと継続的な議論の習慣が様々なアイデアを生み出し、具体化にもつながりました。まさに IT 時代以前の SNS 機能を果たしてきた「プラットフォーム」と言えましょう。「サロン集」は、惜しまれつつも平成 27 年 5 月末で閉店しましたが、その精神は神保町の「ブックカフェ二十世紀」などに引き継がれています。

## 民間版まちの駅とネットワーク型まちの駅

前述のとおり、当初のまちの駅は地域連携軸を担う公共施設がターゲットでした。収益事業ではないので、民間の参入は想定外でした。そこに富山県高岡市の伏江努氏から株式会社として「まちの駅」に参画したいという要望があり、民間経営第1号の「まちの駅たかおか」が生まれました。さらに、福岡県甘木・朝倉地域の上野春樹氏、手嶋隆行氏からは、「まちの駅」を街中に多数作って日常的に人が交流できる語らいの場にしたいという提案が出されました。新しい発想を得て、甘木・朝倉地域で商店や民間施設も含めた公募型の「まちの駅」の実験事業が行われました。その結果、民間施設の活用（開放）を中心に設置するネットワーク型まちの駅が、各地で誕生することになりました。設置賛同者が増えたところで、平成12年に「まちの駅連絡協議会」を立ち上げ、認証を始めました。

余談ですが、その頃コンビニをまちの駅にしてはどうかという提案があり、田中は紹介された大手コンビニの重役に説明に行ったことがあります。その時は実施は難しいという話でしたが、近年コンビニがトイレを開放したり、イートインコーナーを設置するようになってきたのはお気づきのとおりです。



## 健康のまちづくりをリードする健康の駅

田中は、まちの駅が人と人をつなげる「ヒューマンステーション」であると同時に、同じテーマの施設がつながる「テマステーション」であるべきだと考えました。そこで、健康増進をテーマにした「まちの駅」を「健康の駅」として位置づけ、ネットワークさせる試みを始めます。そもそも「病院をひらく」という発想であり、地域住民の健康を守るためには人と人のコミュニケーションで元気になる取り組みが一番効果的ではないかという仮説です。そこで、サロン集で「健康の駅を考える会」を開催し、健康の駅の目的、条件、活動内容等を整理し、取り組みの足がかりを作っていました。また、全国首長連携交流会や提言・実践首長会等でも議論を重ね、賛同者を募っていきます。一方、健康は生命に関わることでもあるので信用出来ることが必須条件であり、そのための認証機関として平成17年に「健康の駅推進機構」を立ち上げました。会長には、「サロン集」で「ぼんずの会」の世話人を務めた医師の大倉久直氏にお願いしました。現在、健康の駅は全国に17駅あります。

## Eボートの開発と「川の駅」連携構想

地域交流センターではダム湖の活用を推進するために「ダム水源地交流協議会」を組織し、平成3年より、持ち回りで「ダム・ウォータースポーツ競技大会」を開催しました。しかし、カヌーやレガッタは専門性や競技性が強すぎて、住民主役の恒例イベントとしては根付きませんでした。そこで田中はメーカーや関係者と協議して10人乗りの手漕ぎボートを作ることを決めます。コンセプトは「老若男女だれでも楽しめ、水辺の交流の道具となるみんなのボート」。交流の意味のExchangeと環境のEco-Lifeの頭文字をとって、Eボートと名付けました。

最初のEボート（Y型）は、強化プラスチックで成形したボートでしたが、運搬が大変でした。次に組み立て式のEボート（F型）を作りました。運搬は便利になりましたが、耐久性に課題がありました。現在はゴム製のEボート（G型）が普及しています。

実はEボート（G型）の開発には、まちの駅連絡協議会の久住会長が深く関わっています。見附市長になる前、岩谷産業に勤務していた時に、田中を連れてオーストリアのクラブナー社長を訪問したことで、クラブナー社がEボート（G型）を開発することになったという経緯があります。（右の写真は左が田中栄治、右が久住時男会長、中央奥がクラブナー社長です。）



田中が注力したもう一つの「テマステーション」は「川の駅」でした。

川は上流から下流へとつながっており、川を軸にした地域連携軸を構築すること。川沿いに「川の駅」を点在させて、川に関する情報提供、川を利用した活動拠点としてネットワークさせれば、川を共有化した人間関係が構築できます。そこで河川軸を活かして、防災、健康・福祉、教育といったテーマで多様な主体が交流・連携し、「魅力ある圏域」を作る可能性を、平成21年度から江戸川・利根川・魚野川・信濃川をフィールドに検討する予定でした。日本海と太平洋をつなぐ連携軸を分かりやすく「佐渡島からディズニールランドまで」と表現し、「広域共助」というキーワードで地域連携軸を構築するという構想でした。田中栄治は自分でも最後の仕事と考えていただろうと思われませんが、その矢先に病魔に襲われてしまったことは、返す返すも残念でなりません。

田中栄治の思いや実践は、故人と関わった多くの人によって引き継がれ、生かされることでしょう。

# 予告 第22回「まちの駅全国大会 in 焼津」開催概要

令和元年度のまちの駅全国大会は、静岡県焼津市で開催します。焼津と言えば、3つの漁港を持つ水産業のまち、カツオもマグロも水揚げ量日本一を誇ります。ぜひとも皆様お越しく下さい。

現在、まちの駅メンバーと行政とで連絡を取り合っており、皆様をお迎えするプログラムを検討中です。

**開催日：令和元年 10月4日（金）～5日（土） 会場：焼津市グランドホテル**

## 新規まちの駅のご紹介 （平成30年9月から平成31年3月までの加盟駅）

都道府県	市町村	まちの駅名
茨城県	水戸市	まちの駅みとネットワーク ・センチュリー21・みとちゃんの駅 ・憩いの駅
栃木県	鹿沼市	まちの駅ネットワークかぬま ・DELICAFE COCOVO ～笑顔、つながる～カフェ ・ふくろうの駅 ・住まいの駅 ・あすへの架け橋の駅 ・トータルカーステーション ・携帯電話の駅 ・イエズミダンススクール ・地鶏の駅 ・輝く街と住まいづくりの家
千葉県	東金市	まちの駅ネットワーク東金 ・銀玉特急あたりや駅 ・スポーツの駅 ・てがみの駅 ・和食の駅 ・たたみの駅
福島県	富岡町	・ふたばの駅 ふたばいんふお
福井県	勝山市	まちの駅ネットワーク勝山 ・カフェとランチの駅 ・ごはんの駅
新潟県	長岡市	越後ながおかまちの駅 ・まちに開いた音楽制作プロダクション音楽図書室
山形県	長井市	まちの駅 cross-ba(クロスバ)
広島県	廿日市市	まちの駅ネットワークはつかいち ・昼は穴子めしの駅 夜は居酒屋の駅 ・「カラオケ」さざなみの駅 ・宮島を望む離れの宿 駅 ・集い・学び・つながる駅 大野東
	呉市	・まちの駅 雑貨屋ふくすけ

都道府県	市町村	まちの駅名
佐賀県	小城市	小城市まちの駅まちづくりネットワーク ・まちの駅西九大小城キャンパス

### 編集後記

まもなく平成が終わります。次の元号は「令和」となります。元号が変わることについていろいろな意見がありますが、一つの区切りがつくことで、気分も一新されることでしょうか。一方で「まちの駅」の生みの親である田中栄治も他界し、大きな節目になりました。時代の大きな移り変わりを実感しております。

本号では、まちの駅の創設者田中栄治の実績を、一部だけですが紹介させていただきました。時の経つのと同時に記憶もあいまいになります。細かい部分で間違い等がありましたら、ご指摘いただければ幸いです。

田中の持論は、「社会課題の8割は、人と人とが交流することで解決できる」でした。交流の仕方については、「交流させる社会技術というものがある」と言うこともあれば、「一緒に飲みながら、とことん話をすればいいんだよ」という時もありました。まちの駅を、更なる人々の交流の場にして、地域課題解決のための知恵や行動が生まれる場にしていきましょう。(は)



全国まちの駅連絡協議会事務局  
（NPO 法人地域交流センター内）  
東京都千代田区東神田 1-7-10 KIビル 3F  
TEL03-5823-4190/FAX03-5823-4191

